

議会だより

CONTENTS

2020.5.1 vol.66



- 2 … 3月定例会 ここに注目!
- 4 … 総務厚生委員会レポート
- 8 … 産業建設文教委員会レポート
- 12 … 3月定例会で審議された案件
- 14 … 一般質問
- 18 … 平戸のチカラ



木ヶ津町に移住して来られた田中義大さん、有希さん

とかいせん

No.66 2020.5.1 平戸市議会だより

編集・発行：平戸市議会広報特別委員会 平戸市岩の上町1508-3

TEL22-9170 FAX22-3427 E-mail: gikakai@city.hirado.lg.jp



このコーナーでは、平戸市にU・Iターンし、地域で元気に頑張っている皆さんをご紹介します。

人の温かさと自然を感じる平戸。 心が豊かになるサポートをしたい。

田中義大さん、有希さんご夫妻は、2019年に木ヶ津町に移住して来られました。横浜市出身の義大さんはヨガ教室の講師などをして活躍、また、有希さんは繊細な刺繍でアクセサリーを作られています。今回は、笑顔が素敵なお二人を紹介します。



田中さんご夫妻

● 静かな暮らしに憧れて

夫婦で世界20カ国以上を旅しているという田中さんご夫妻。帰国後、日本で移住先を探す中、九州地方では天草市や糸島市に興味を持ったそうです。しかし、訪れるにはよい場所はたくさんあっても、移住先はすぐには見つからなかったとのこと。そんな中、平戸市や根獅子町のゲストハウスを紹介するサイトを見て、自然豊かなこの地に泊まってみたいと感じたことが平戸市を訪れるきっかけとなりました。

● 平戸へ移住

平戸市に移住相談をしたとき「自分たちの思いを理解し、素早い対応で支援をしてくれ、信頼ができた。」と義大さん。有希さんの理想でもある、図書館が素敵な街、美味しいカフェやお菓子がある街という条件も揃っていたこと。また、お試し住宅や移住者が開催したイベントにも足を運ぶうちに、住み心地の良さを感じ平戸市に移住を決めたそうです。生活を始めて1年、今では移住者間のコミュニティも大切に、地域の皆さんの温かさと生命力を感じつつ、近所の方々に見守られながら心地よい生活を送っています。

● 人生がより豊かになっていく

お手伝いができれば

「ヨガで心と体をほぐし、自分と向き合う時間をつくるお手伝いをしたい。」と義大さんはヨガ教室を開講されています。また、有希さんは刺繍でアクセサリーを作られており、「依頼者の想いを受け取り、それを形にすることで、心の支えとなるお守りのようなものを届けたい。」とのこと。「よく田舎には何も無いとおっしゃる方もいますが、ここには豊かな自然や人の温かさ、生活する力、何でもある。」と話していました。

お二人に今後の目標を尋ねると、義大さんは、「これまでオンラインで行ってきた、人の相談をお聴きする仕事を、平戸の方々にも少しずつ始めており、そちらが本業だと認識されるように活動していきたい。」有希さんは、「現在、心を込めて作品作りに取り組めるよう工房を改装中。ギャラリーや展示販売も行える気持ちのよい空間を皆さんに届けたい。」とのこと。また、ご夫婦共通の目標として、「自分と向き合うことでその人の人生がより豊かになっていくお手伝いができれば。」とにこやかに話しておられました。



有希さん手作りのアクセサリー



ヨガ教室の風景

広報特別委員会

委員長	池田 稔巳
副委員長	松尾 実
委員	井元 宏三
委員	近藤 芳人
委員	山崎 一洋
委員	山本 芳久

今年、オリンピックイヤーで本来ならばこの時期は、大いに盛り上がりつつあるはずだったが、突然の新型コロナウイルス感染症が全世界に猛威を震らしている。1月初めに中国武漢市で発症した際は、対岸の火事と安易に捉えていたが、まさか2ヶ月足らずで、オリンピックも来年に延期になるなど、世界を恐怖に陥れる事態になってしまった。県内でも発症者が確認されるなど他人事ではなくなり、いつ何となく感染するかもしれない非常事態である。本市にとってこれから観光シーズンであるが、行事イベントなど相次いで延期、中止になり、宿泊施設等の落ち込みが非常に心配である。

明確な対策が無い以上、不安な日々が続くが、一日も早いコロナウィルスの収束とまちの賑わいと共に新学期が始まった学校から子どもたちの元気な声が聞こえるのを願いたい。(松尾 実)

編集後記

